

異分野融合による総合書物学の拡張的研究
国文研ユニットの活動紹介 2022-23国文学研究資料館
木越俊介 松永瑠成古活字版の組成・版面パターンの
情報工学的解析

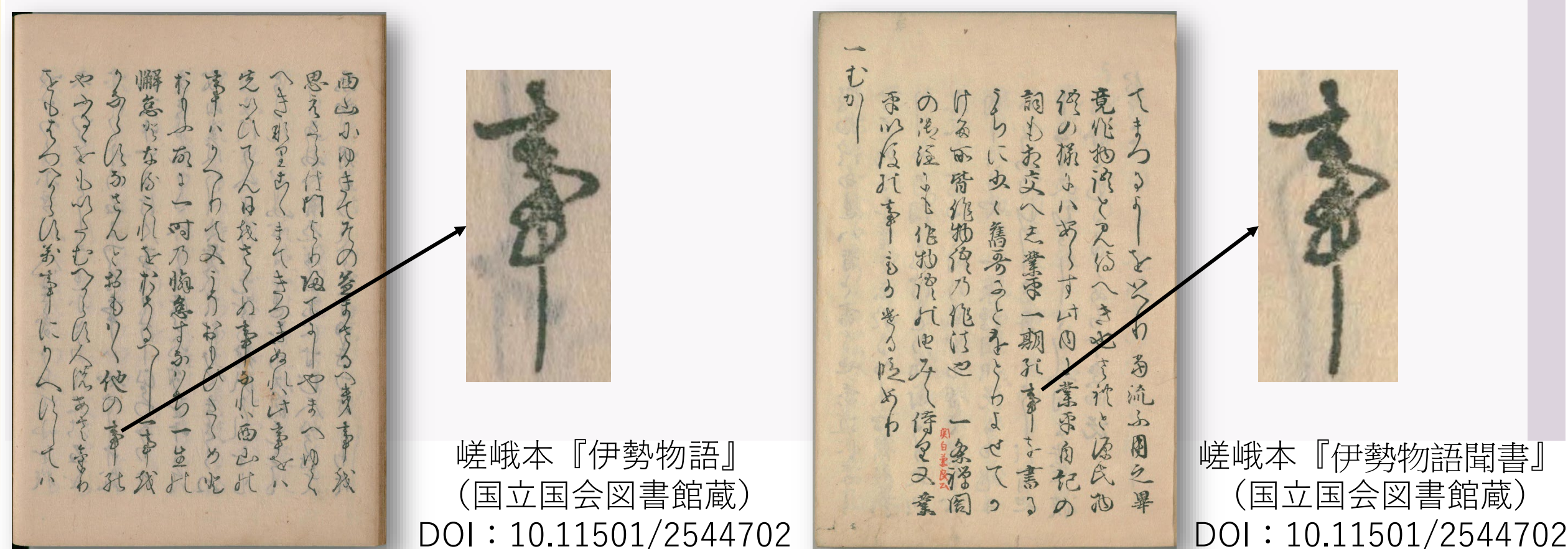
AIによるパターン学習の最新技術を用いることにより、活字の組み方（組成）と版面を情報工学的に解析し、タイトルごとの精緻な書誌情報を集積していく。

作業フロー

- ①対象となる資料の選定
- ②対象となる資料のデジタル画像が公開されていない場合、新たに撮影しデータを作成
- ③画像データから個別の活字（活字ブロック）の切り出し
- ④切り出した画像（活字ブロック）の比較による同定作業

①について

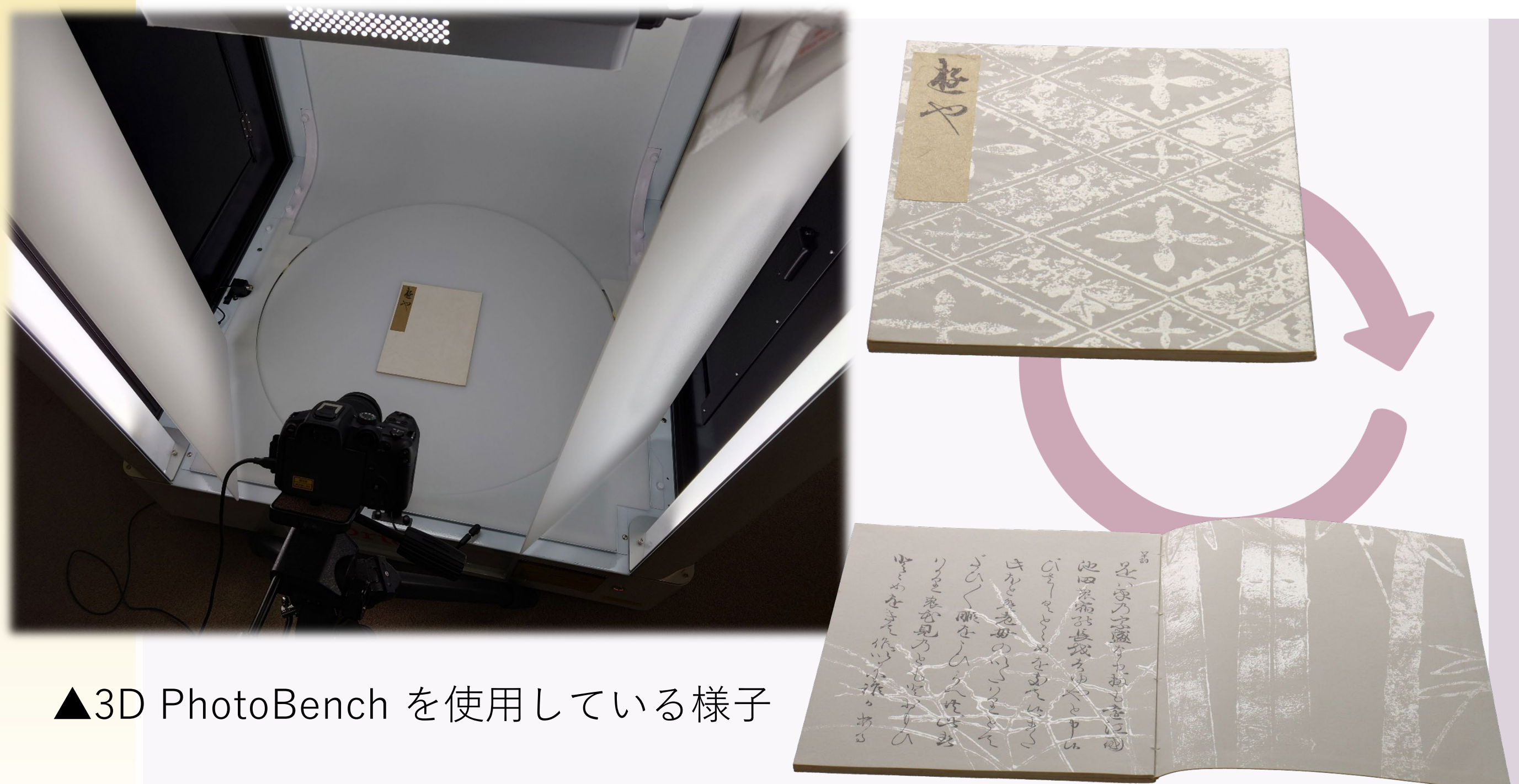
- メンバーである小秋元段氏・柳沢昌紀氏とともに、
- A) すでに先行研究で同一活字の使用が判明している諸書間での活字の共有状況の調査
 - B) 川瀬一馬氏が同じ刊行者による開版と指摘した諸書間での活字の共有状況の調査をおこなうこととし、それぞれ対象となる資料を選定。



書籍の立体的撮影の試み

従来の俯瞰撮影による古典籍のデジタル化で失われてきた情報（たとえば、表紙文様の立体感、小口・製本の様子、平面では再現の困難な雲母摺りなど）を補完するべく、新しい方法による撮影に取り組んでいる。

オートリージャパン株式会社の3D PhotoBench 280を導入し、古典籍を360°どこからでも見ることが出来るデジタルデータの作成を試みている。



▲3D PhotoBench を使用している様子

▲実際に撮影した写真（一部）

『解体新書』を比較する
「室町三町目」版と「室町二町目」版

安永3年（1774）刊の『解体新書』には、刊記における版元須原屋市兵衛の所付が「室町三町目」「室町二町目」の2種が存在する。

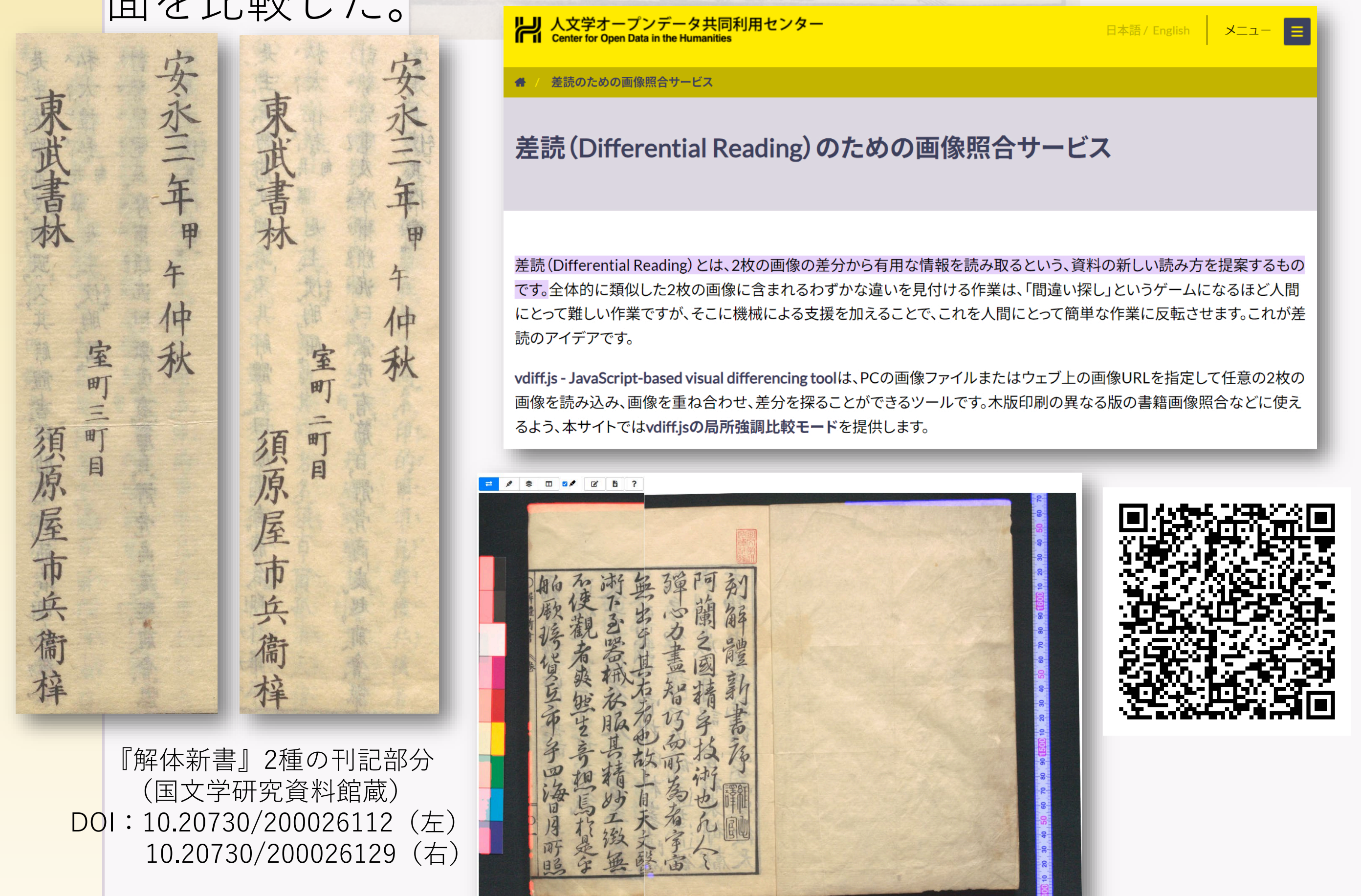
先後関係については、

「室町三町目」→「室町二町目」

であることは既に判明（松田泰代「蔵版目録の分析による刷年代識別法—書肆須原屋市兵衛の蔵版目録を事例として—」（『書物・出版と社会変容』8、2010年4月）など）

両者の本文間にある異同については未詳。

↓
差読（Differential Reading）のための画像照合サービス（北本朝展氏開発）を用い、国文研が所蔵する「室町三町目」「室町二町目」の所付を持つ2種の『解体新書』（DOI: 10.20730/200026112、10.20730/200026129）の版面を比較した。



(上) 「差読（Differential Reading）のための画像照合サービス」のトップページ
(下) 実際に『解体新書』を比較している様子

▼比較した結果、両者が全くの同版であることが判明し、異なるのは所付の町名のみであることが明らかとなった。

総合書物学の展望 2024～

1. 「活字データセット」をもとに特定の活字の使用状況を調べられるツールの開発。
2. オートリージャパン株式会社の3D MultiArm 2000を導入し、360°のみならず半球画像の撮影の実現。
3. 半球画像の撮影による3D版『表紙文様集成』の作成。
4. 『解体約図』の比較・調査
『解体新書』の前年に刊行された『解体約図』にも、版元である須原屋市兵衛の所付が「室町三町目」「室町二町目」となっている2種が存在しているが、この版面を徹底調査する。